

**令和5年（2023年）8月6日～10日に  
沖縄地方、九州南部・奄美地方、九州北部地方及び四国地方で  
線状降水帯が発生した事例**

---

令和5年9月 気象庁大気海洋部

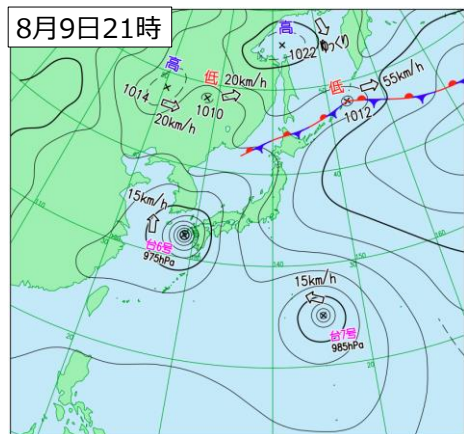
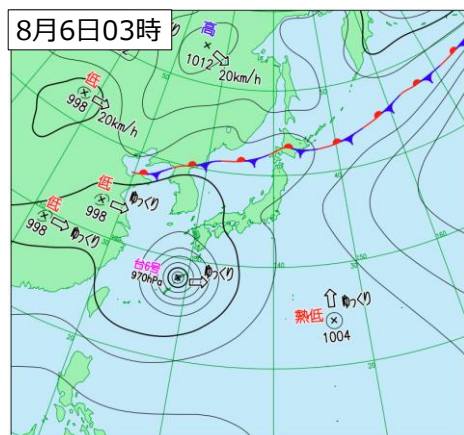
# 気象の概況、線状降水帯に関する情報の発表状況

## 【気象の概況】

・台風第6号の発達した雨雲や周辺の暖かく湿った空気の流れ込みの影響で、8月6日に沖縄地方で、8月9～10日にかけて九州南部・奄美地方及び九州北部地方で、8月10日に四国地方で線状降水帯が発生し、大雨となった。

## 【線状降水帯に関する情報の発表状況】

・沖縄地方では8月5日から6日の気象情報にて、九州南部・奄美地方では8月5日から10日の気象情報にて、九州北部地方では8月8日から10日の気象情報にて、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施した。  
 ・8月6日に沖縄県、8月9日に鹿児島県、宮崎県及び熊本県、8月10日に宮崎県、大分県、高知県及び愛媛県を対象に顕著な大雨に関する気象情報を発表した。



## ○ 線状降水帯に関する情報の発表状況

地方	半日程度前からの呼びかけ※1	顕著な大雨に関する気象情報※2
沖縄	8月5日05時22分	8月6日05時30分（沖縄県本島北部）
九州南部・奄美	8月5日05時34分	なし
九州南部・奄美	8月8日05時50分	8月9日10時20分（鹿児島県種子島・屋久島地方） 8月9日21時00分（宮崎県南部山沿い） 8月10日01時39分（宮崎県北部平野部、北部山沿い）
九州北部	8月8日11時34分	8月9日21時00分（熊本県球磨地方） 8月10日01時39分（大分県南部）
四国	なし	8月10日00時39分（高知県中部） 8月10日02時10分（愛媛県東予）

※1 一連の現象で複数回呼びかけた場合は、最初の呼びかけ日時のみ掲載。

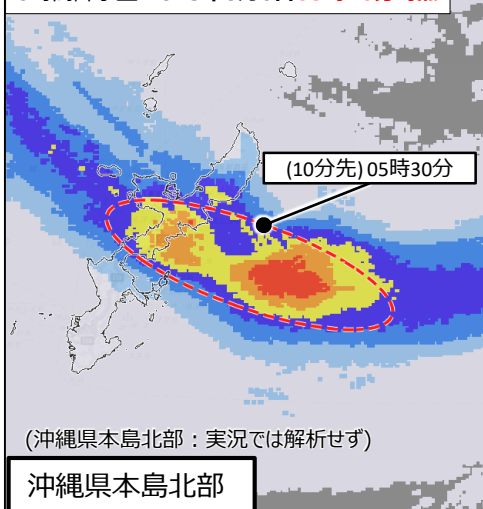
※2 線状降水帯の発生をお知らせする「顕著な大雨に関する気象情報」は、現在、10分先、20分先、30分先のいずれかにおいて、以下の基準をすべて満たす場合に発表する※3。

- ① 前3時間積算降水量（5kmメッシュ）が100mm以上の分布域の面積が500km<sup>2</sup>以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクル（大雨警報(土砂災害)の危険度分布）において土砂災害警戒情報の基準を超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）において警戒基準を大きく超過した基準を超過

※3 情報を発表してから3時間以上経過後に発表基準を満たしている場合は再発表するほか、3時間未満であっても対象区域に変化があった場合は再発表する。

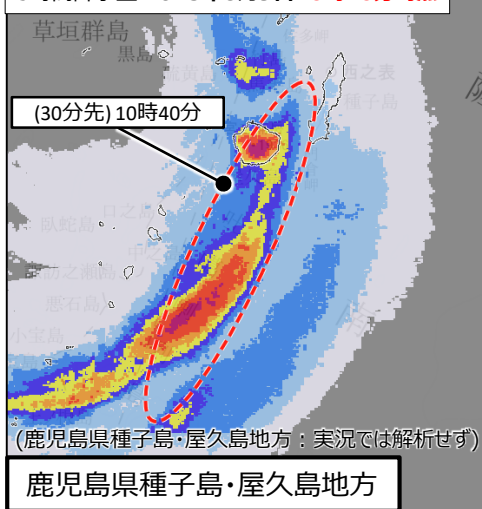
# 線状降水帯の解析状況

3時間降水量 2023年8月6日05時20分時点



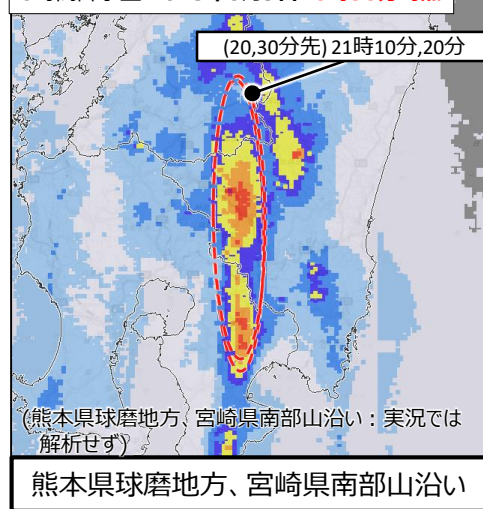
線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約140ミリ**※

3時間降水量 2023年8月9日10時10分時点

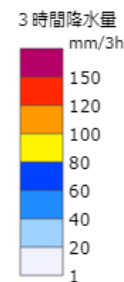


線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約190ミリ**

3時間降水量 2023年8月9日20時50分時点

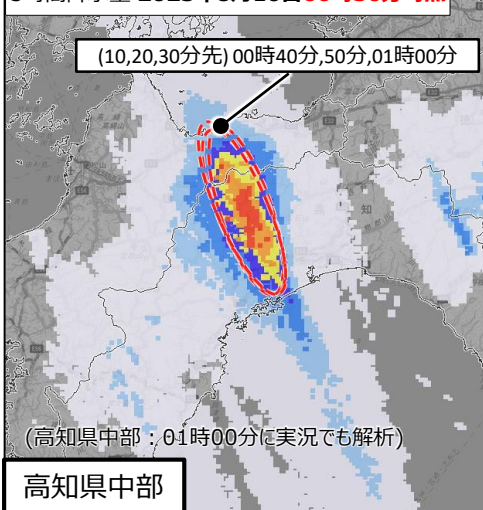


線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約150ミリ**



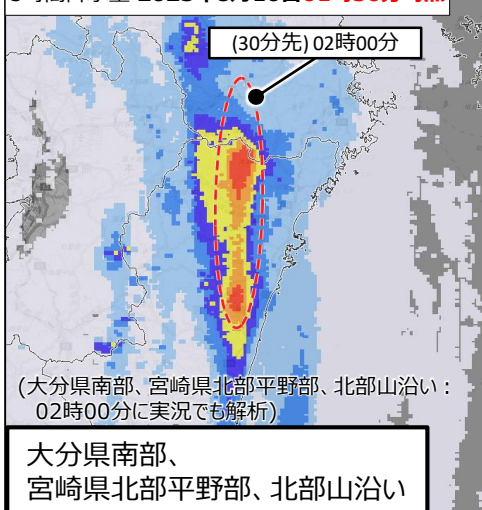
- 大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域 (現在時刻の解析)
- 大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域 (10~30分先の解析)

3時間降水量 2023年8月10日00時30分時点



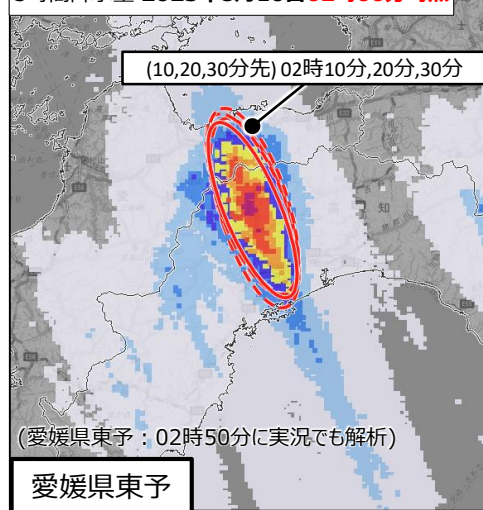
線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約180ミリ**

3時間降水量 2023年8月10日01時30分時点



線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約150ミリ**

3時間降水量 2023年8月10日02時00分時点



線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約180ミリ**

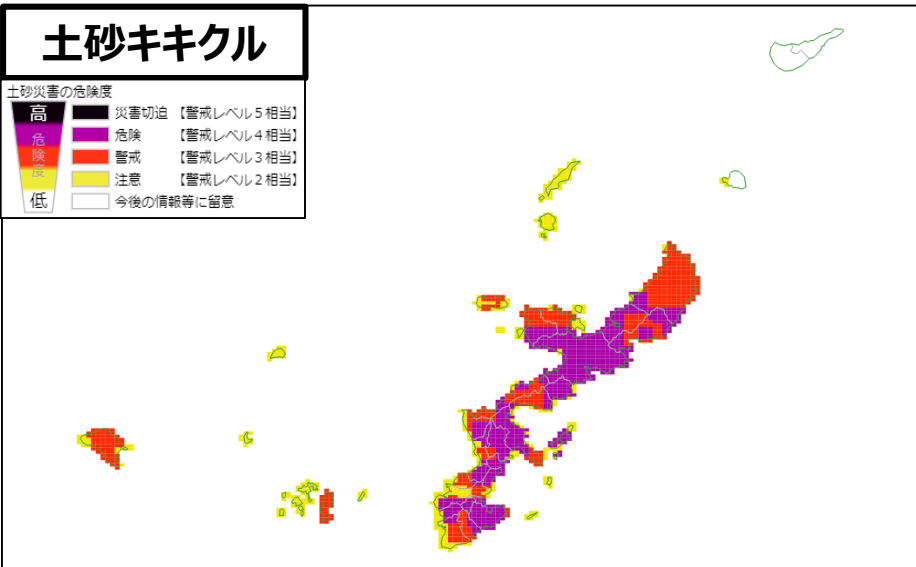
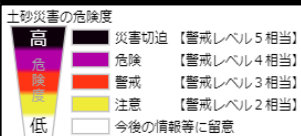
それぞれの地域における、顕著な大雨に関する気象情報の発表に用いた線状降水帯の雨域 (ラベル付き) 及びその解析された時刻を示している。

※ 10~30分先に基準を満たすとして「顕著な大雨に関する気象情報」を発表した場合、実際には前3時間降水量積算値が150mmに達しないことがある。

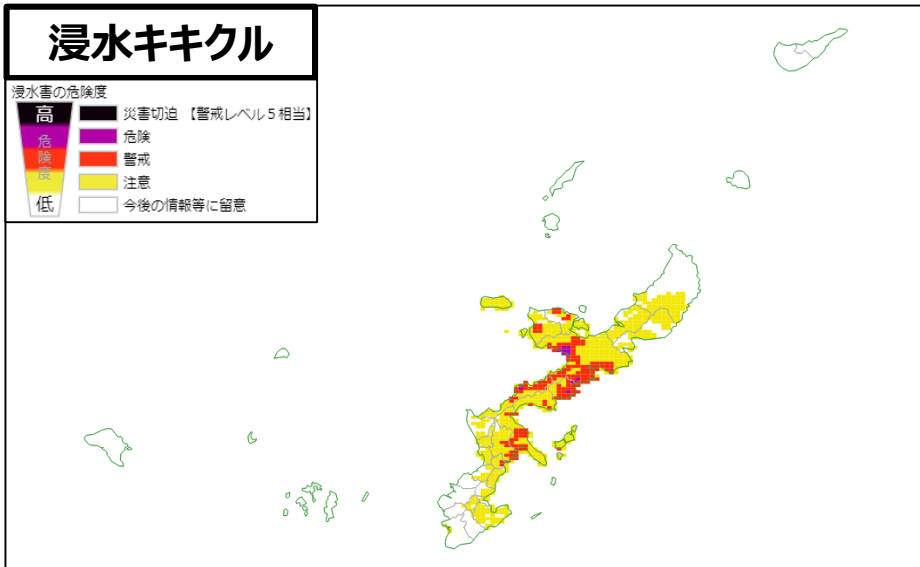
# (参考) キキクル (危険度分布) の状況

8月6日：沖縄地方では、キキクルにおいて「危険」(紫)が広がった。

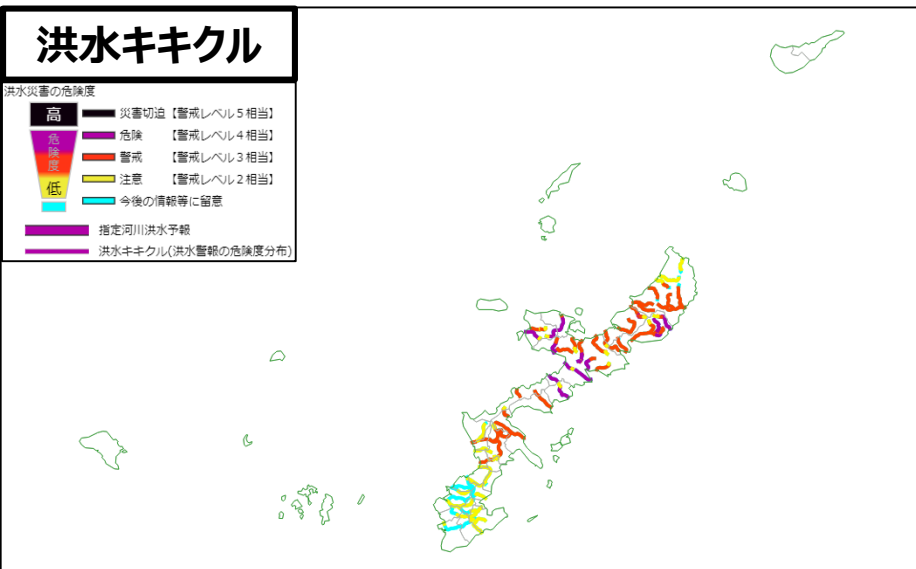
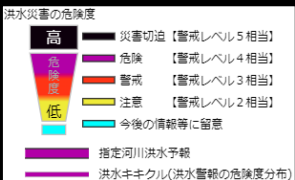
## 土砂キキクル



## 浸水キキクル



## 洪水キキクル

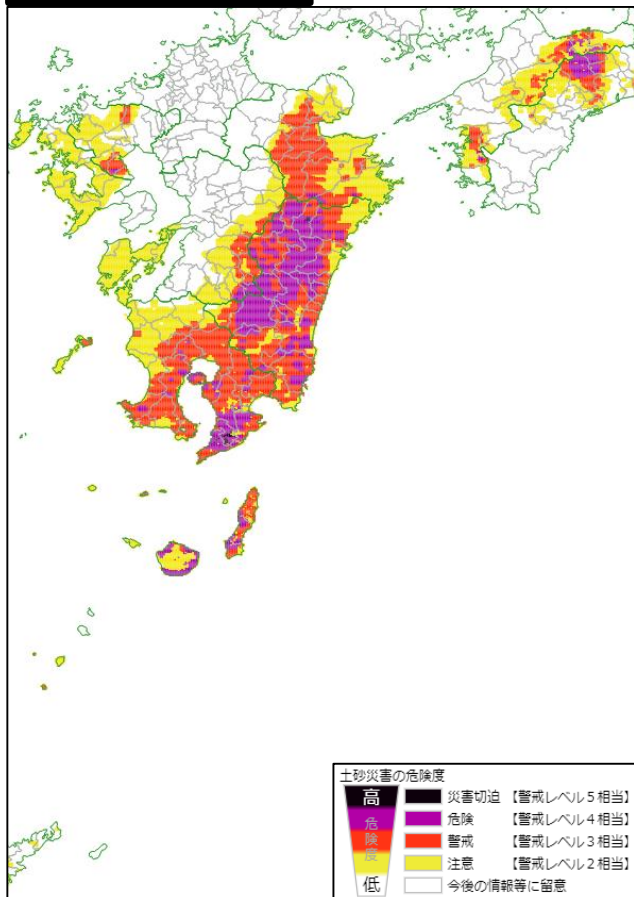


8月6日0時から7日0時にかけて出現した最大の危険度

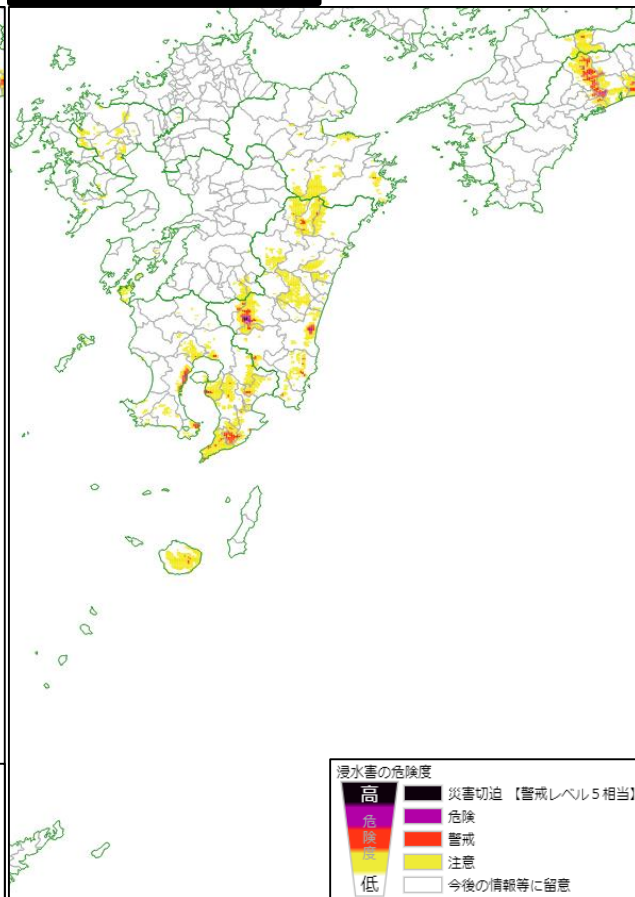
# (参考) キキクル (危険度分布) の状況

8月9日～10：九州南部・奄美地方、九州北部地方、四国地方では、キキクルにおいて「危険」(紫) が広がり、「災害切迫」(黒) も出現した。

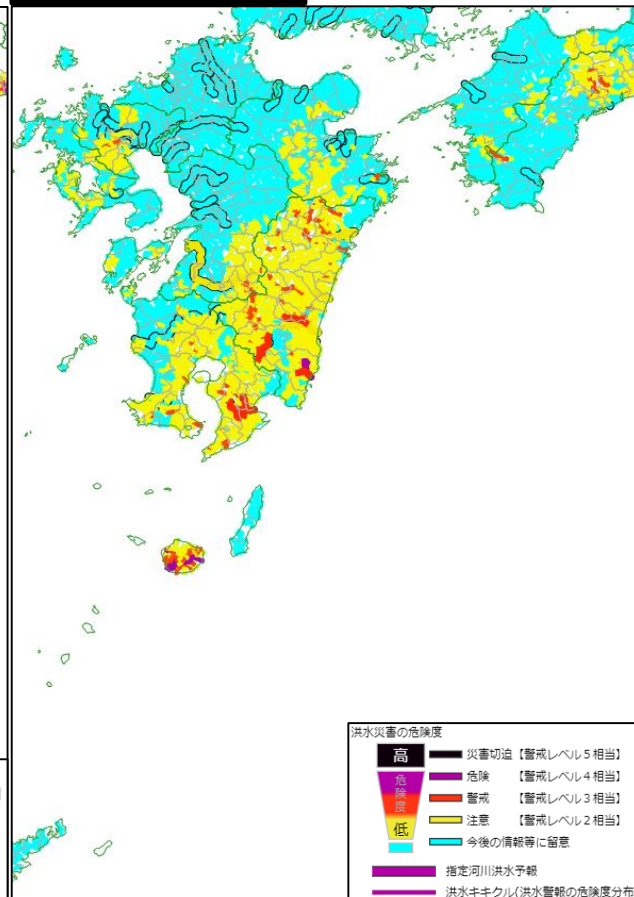
## 土砂キキクル



## 浸水キキクル



## 洪水キキクル



8月9日6時から10日6時にかけて出現した最大の危険度

# 本資料について

- 本資料は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施した事例、又は線状降水帯が発生した事例※について速報的にまとめた資料です。  
※「線状降水帯が発生した事例」とは、前出の「顕著な大雨に関する気象情報の発表基準」を満たした場合をいいます。
- 本検証資料は「大雨事例等における防災気象情報の精度検証と発表基準の改善」のページからアクセスできます。  
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jirei/index.html>
- 関連する情報は、「線状降水帯に関する各種情報」のページをご覧ください。  
[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/kishojoho\\_senjokousuitai.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/kishojoho_senjokousuitai.html)
- 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを、地方予報区単位で実施していることから、検証も地方予報区単位で実施し、同じ地方予報区でも時間がある程度あいた場合等は異なる事例として取り扱っています。ただし、ここに掲載する検証資料は、地方予報区をまたいで線状降水帯が発生した場合等に1つにまとめていることがあります。

現在の技術では、線状降水帯による大雨の正確な予測は難しく、呼びかけを実施しても必ずしも線状降水帯が発生するわけではありませんが、線状降水帯が発生しなくても大雨となる可能性は高いため、この情報が発表されたときには心構えを一段高めてください。

また、線状降水帯による大雨の呼びかけがなくても、線状降水帯が発生したり、災害をもたらすような大雨となったりすることがあるため、自治体が発令する避難情報や、大雨警報やキキクル等の段階的に発表される防災気象情報とあわせてご活用ください。